

土地利用型野菜の生産安定と販路開拓

～カボチャ・祝だいこん～

要約

<カボチャ>

通常の作型で問題となる日焼け果実の発生が少なく貯蔵性の良い白皮カボチャと10月頃に収穫する抑制作型の実証を行うとともにそれぞれ適品種として‘銀世界’、‘粉雪姫’、‘栗将軍’、‘ダークホース’を選定した。高単価時期向けカボチャとして0.35haに面積拡大した。

<祝だいこん>

大規模生産グループが、水圧洗浄機を導入することにより、栽培面積を1.8ha(H29)から2.7ha(R1)に拡大させた。また、慣行のブラシ式洗浄機を導入することにより、新たに1グループが栽培に取り組んだ。

現状(背景)と課題

- 高単価時期向け栽培(カ^レチャ) 0.1ha
- 祝だいこん栽培面積 2.7ha



目標

- 高単価時期向け栽培(カ^レチャ) 0.5ha
- 祝だいこん栽培面積 3.0ha

活動内容

<カボチャ>

- 対象：山添村カボチャ生産者 10名
- 現地指導、通常作型における白皮カボチャと抑制作型の実証、品種検索

<祝だいこん>

- 対象：JAならけん宇陀地区宇陀高原野菜部会、宇陀高原野菜出荷グループ
- 現地指導、洗浄機導入支援（大和野菜生産力強化事業）

成果

- 高単価時期向け栽培(カ^レチャ) 0.35ha
- 祝だいこん栽培面積 3.1ha（うち大規模生産グループ2.7ha）

<カボチャ>



カボチャ圃場巡回

<祝だいこん>



水圧洗浄機



慣行機

東部農林振興事務所農業普及課
担当：農産物ブランド推進係 安川、神川
大和野菜生産力強化事業

普及活動のポイント

<カボチャ>

- ・白皮カボチャについては、日焼け果の発生が少ないこと、長期保存が可能であること等により、小規模ではあるが取組生産者が6戸まで増えた。
- ・抑制作型については、玉揃いや肥大等から‘栗将軍’と‘ダークホース’の2品種が優れた。
- ・出荷先については、学校給食会に出荷を行い（11月）、170円/kgと高値で販売ができた。

<祝だいこん>

- ・水圧洗浄機は高価であるが、慣行機に比べて4倍以上の処理能力があり、雇用を多く抱える経営体にとっては人件費を大きく削減できた。
- ・慣行機では1日の処理可能本数が限られるが、安価であるため新規参入者にとっては導入しやすい。
- ・補助事業の活用により、導入コストを抑えることができた。

対象の変化

<カボチャ>

- ・通常の作型と抑制作型により、栽培面積拡大につながる生産者が現れた。

<祝だいこん>

- ・水圧洗浄機の導入により省力化が図られ、生産意欲が向上した。
- ・面積拡大のために、農地の借り入れにつながった。

対象者からのコメント

<カボチャ>

- ・抑制作型は高単価時期に出荷するための有効な手段である（生産者、JA担当者）。

<祝だいこん>

- ・大規模生産グループ 洗浄作業に時間がかかり、多くの雇用を必要としていたが、水圧洗浄機の導入により、省力化が図られ、面積拡大につながった。
- ・新規参入グループ 慣行の洗浄機の導入により、栽培に取り組むことができた。一定以上の面積を栽培するにはパート雇用の確保が課題である。

これからの活動ビジョン

<カボチャ>

白皮カボチャ、抑制作型ともに定着できるよう情報提供を行う。

<祝だいこん>

労働力の確保：年末の厳冬期におけるパート雇用の確保の支援。

活動体制

